



近畿農政局より

滋賀県の平成29年産水稲の予想収量と作況指数が9月29日に公表されました。

滋賀県の予想収量は517kgで昨年より17kg減、作況指数は100となり平年並みとなりました。

作柄概況・・・

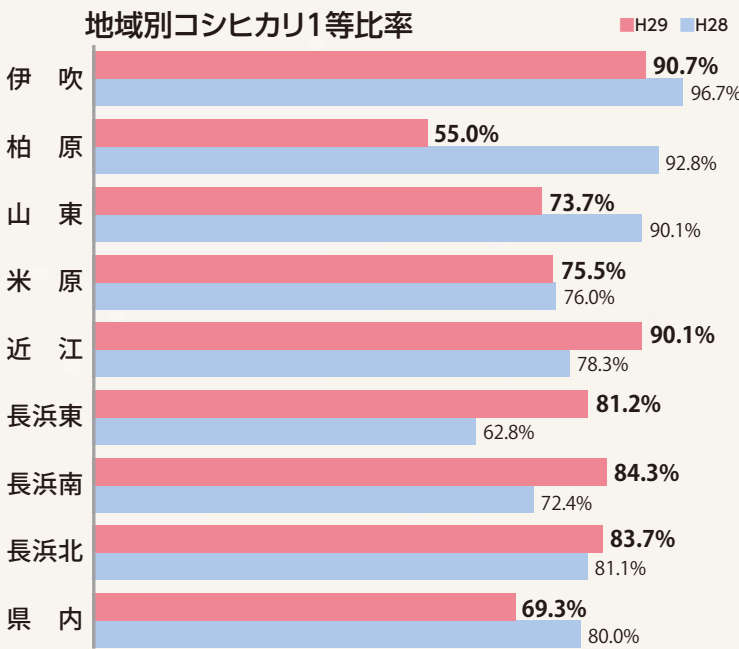
6月に気温が平年を下回った時期があったものの、田植期以降、おおむね高温・多照したことにより分げつが促進され、穂数は「やや多い」傾向となりました。1穂当たりもみ数は、穂数やや多くなったことから相反作用等により「やや少ない」となりました。以上のことから全もみ数は「平

滋賀県10a当たりの予想収量 (9月15日現在)

- 【滋賀県】**
10a 当たりの
予想収量 517kg
(前年差△17kg)
- 【湖北】**
10a 当たりの
予想収量 498kg
(前年差△17kg)
- 【湖南】**
10a 当たりの
予想収量 526kg
(前年差△17kg)



※ 1.70mmのふるい目幅で選別された玄米重量となります。



(9月末地場検査実績集計)

年並みとなりましたが、登熟期の日照不足等の影響により、登熟歩合が低下いたしました。

地域別コシヒカリ1等比率

29年産米の地場検査結果は左記の結果となり、レーク伊吹管内全体のコシヒカリの1等比率は82.1%で、前年の76.5%より向上いたしました。

異常な気象変動の下、作期による等級の違いや、地域毎の病害虫発生状況の確認や、土壌に応じた栽培方法・施肥体系などの技術対策が必要です。

例年多い2等以下の格付と主な要因

平成29年産は、登熟期の日照不足など気象変動が大きい年となりました。次年度に向け、気象変動に負けない対策が重要です。

例年多い2等以下の格付と主な要因

格付種類	種類解説		要因
除青未熟粒	充実の不十分な粒で、玄米の厚みが薄く、縦溝が深い。歪みや変形したものもある		<ul style="list-style-type: none"> ● 籾数過多 ● 登熟期の稲体の活力低下
心白・腹白粒 (白未熟粒)	乳白粒	胚乳部に白色不透明な部分がある部分的にデンプン供給不足で発生	<ul style="list-style-type: none"> ● 登熟初期の高温・日照不足 ● 籾数過多・総籾数30,000粒/m²を上回ると発生率が高い
	背白粒	米粒の背部に白色不透明な部分がある	
	基部未熟	米粒の基部に白色不透明な部分がある	
胴割粒	米粒に亀裂がある。		<ul style="list-style-type: none"> ● 出穂後10日間の高温 ● 早期落水・刈遅れ
もみ混入	玄米中に籾が混合する。(1000粒の内、約5粒以上は2等)		● 機械設定・調製涼・水分ムラ
カメムシ着色粒	カメムシによる吸汁被害 イネシンガレセンチュウによる被害粒 (1000粒の内、約3粒以上は2等)		<ul style="list-style-type: none"> ● 畦畔雑草でのカメムシ類の増殖・適期防除の未実施 ● 種子消毒 (イネシンガレセンチュウ)

